

エコツーリズムによる持続可能な開発：台湾南投県の の原住民保留地を事例に

曾，宇良
九州大学大学院生物環境科学府

飯田，繁
九州大学大学院農学研究院

<https://doi.org/10.15017/4351>

出版情報：九州大学大学院農学研究院学芸雑誌. 60 (1), pp.57-64, 2005-02-01. 九州大学大学院農学研
究院

バージョン：

権利関係：

エコツーリズムによる持続可能な開発 — 台湾南投県の原住民保留地を事例に —

曾 宇 良¹・飯 田 繁^{*}

九州大学大学院農学研究院森林資源科学部門森林生態圏管理講座森林生産制御学研究室
(2004年11月5日受付, 2004年11月11日受理)

An Analysis of the Ecotourism on the Reserve for Formosan Aborigines in Taiwan — A Case Study on the Bakulas Natives' Reserve in Nantou County, Taiwan —

Yuliang TSENG¹ and Shigeru IIDA^{*}

Laboratory of Forest Resource Management, Division of Forest Ecosphere Sciences and Management,
Department of Forest and Forest Products Sciences, Faculty of Agriculture,
Kyushu University, Fukuoka 811-2415, Japan

緒 言

原住民とは、特定の地域に古くから生活し、特別な言語、風俗習慣を持ち、支配的な民族と違う生活様式をしている少数民族である。原住民は主に原住民保留地に生活しているが、その保留地は、彼らの生活や文化を保護するためにあり、現在、約25万ヘクタールの面積が指定されている(陳, 1999)(図1参照)。

台湾のWTOへの加入は、原住民保留地の農業生産活動に大きな影響を与えることが予測され、農業以外の新しい対策を提示しなければならない。

最近、自然環境の保全、地元生活の尊重、地元の風俗や文化の体験等を内容とするエコツアーが重要になってきた(紀, 1998; 高, 1998; 李・侯, 1998; 歐, 1998)。エコツーリズムはレクリエーションを重視するものの、(ア)自然資源と景観の保護、(イ)地域文化と生活の尊重、(ウ)ツーリズムからの利益を地域の生計と資源保護にあてる、という三点を目標としている(西村, 1998)。

原住民保留地の豊富な自然資源と特殊な民族的文化的資産は、エコツーリズムに、大きな役割を果たすものと期待されている。

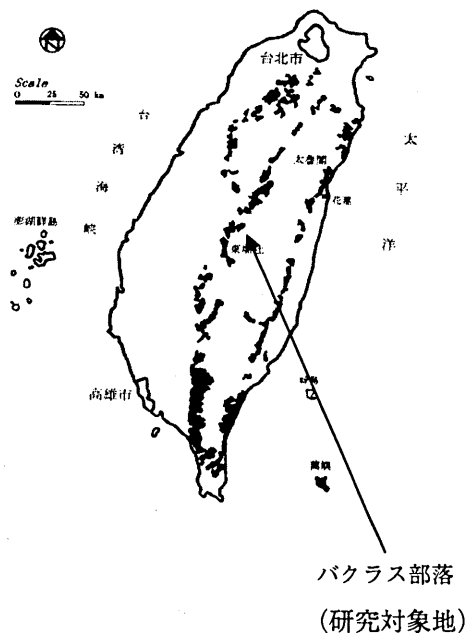


図1 原住民保留地分布図。

¹九州大学大学院生物資源環境科学府森林資源科学専攻森林生態圏管理講座森林生産制御研究室

¹Laboratory of Forest Resource Management, Division of Forest Ecosphere Sciences and Management, Department of Forest and Forest Products Sciences, Graduate School of Bioresource and Bioenvironmental Sciences, Kyushu University

*Corresponding author (E-mail: iidafor@mbx.nc.kyushu-u.ac.jp)

そこで①原住民保留地に適したツーリズムを実施できるのか、②エコツーリズムの経済性はどうか、この2点を明らかにするため、観光客になることが予測される台中市民にアンケートを実施し、疑問に答えることにした。

材料および方法

1. 研究場所

エコツーリズムを想定する場所は、台湾南投県信義郷のブヌ族バク拉斯部落である(図1参照)。信義郷の人口は、約18,000人、主な産業は農業(主な産物は梅、葡萄)である。信義郷には二つの川があり、濁水渓流域と陳有蘭渓流域に分かれる。濁水渓の村は人和村、雙龍村、地利村、潭南村で構成され、人口は約4,500人、原住民は88%、漢民族は12%である。陳有蘭渓の村は明德村、豊丘村、愛國村、自強村、新郷村、羅娜村、望美村、同富村、神木村、東埔村で構成され、人口は13,500人、原住民は41%、漢民族は59%である。

バク拉斯部落は地利村における奥地の未開発の原住民保留地で、交通が不便である。バクラスとはブヌ族の言葉で「川底の平坦なところ」を意味する。日本統治時代に原住民は地利村に移住させられ、荒れ廃れているが、たくさんのブヌ族の石板屋等の遺跡が残されている。美しい自然景観であるにもかかわらず、あまり有名ではない。しかし、最近台湾では4WD Jeep車(オフロード車)によるレクリエーション活動が、河川の環境を破壊していると指摘されるようになった。本研究の場所であるバクラスでもその被害がみられ、それに関する報道が相次いでいる。以下は関係する新聞記事でその一端を紹介する。

ア. 聯合新聞(2000.07.02): 4WD Jeep車が丹大林道に勝手に進入した: 台風が襲来している時、4WD車隊が入山許可を持たないで、丹大林道に勝手に入った。大雨で道路が壊れ、車が移動できなくなった。空中警察救援隊は、現地に入って救援した。入山行為が法律によって禁止されているので、今度の救援に要した金額を被救者に要請することが可能である。

イ. 中國時報(2000.11.04): 濁水渓の生態環境が4WD車に破壊されている: 雨季が終わってから南投県信義郷地利村に、たくさんのJeep車が入った。車隊が無許可で直接林道に入った。私有農地にも入って、農作物に被害を与えた。車が進入できないように障壁が設置されているが、Jeep車の進入は防止できなかった。地元の住民によると、休日に、数十台のJeep車が濁水渓に入って、違法な電魚(電気を利用

した魚とり)をして、ゴミを残し、環境を破壊した。林道の利用は、入山許可証が必要なので、地元の住民は政府にもっと厳しく管理してほしいと要望をしている。

この他にも、民生新聞(2002.12.06): 「休日に七彩湖の環境はJeep車によって破壊される」、民視新聞(2003.03.20): 「Jeep車で川を登り、罰金: 南投県の丹大林道バクラス等の地域ではしばしば4WD Jeep車が侵入」、聯合新聞(2003.10.26): 「19の河川がJeep車の活動に破壊される生態災害: 林務局の調査結果によると、台湾の19の河川に、Jeep車が直接川の中を動き回り、川の生態、地形や水質を破壊した」、中國時報(2003.11.02): 「封鎖でJeep車を阻止できるか: 林務局の調査の結果、台湾の19の河川は、Jeep車の活動によって、破壊されている」など多くの4WDが不法に侵入し、自然を破壊している。

このように、地元の住民は4WD Jeep車による破壊的なレクリエーション活動に反対している。そのため、学者は観光客に環境教育が必要だと主張している。そして、環境にやさしいエコツーリズムを新たなレクリエーション活動の一つとして主張している。

2. 調査方法

台中市は南投県の西隣に位置する大都會である。台中市内から南投県信義郷地利村まで、自動車では約80分である。そのため台中市民はエコツーリズムの態度を調査するのに適している。

台中市民における意向調査は、原住民保留地におけるエコツーリズムに対する願望と価値の分析である。調査対象者は台中市民(300人)であり、調査方法はランダムサンプリングで、有効回答数は267であった。

エコツーリズムに対する意識と経済的分析

1. 台中市民のエコツーリズムに対する態度

表1は台中市民が台湾南投県信義郷のブヌ族バク拉斯部落を対象にエコツーリズムをしたい人と各項目に払うことができる費用(払ってもよいと考える費用)である。支払い意志額をより正確に分析するために来訪者の払いたい金額を独立変数とし、各ツーリズムの項目を従属変数として多次元回帰分析を行った。以下、その分析結果について述べる。

2. 経済的に可能性の分析

潜在的観光客がエコツーリズム活動に払いたい金額

は $w_1 - w_{14}$ (表1の項目に基づく) で、その関数を次の式で示す。

$$WTP = f(w_1, w_2, w_3, w_4, w_5, w_6, w_7, w_8, w_9, w_{10}, w_{11}, w_{12}, w_{13}, w_{14}),$$

$i = 1 \sim 267$.

WTP : 支払い意志額の合計

i : サンプル数

w_1 : 送迎の交通費 (2日)

w_2 : 原住民の伝統的な服を着る費用

w_3 : 原住民の踊りと歌を鑑賞する費用

w_4 : 原住民風の料理代

w_5 : 探検: 滝, 神木などの案内と解説費

w_6 : 原住民部落を回る: 遺跡の案内と解説費

w_7 : 原住民の美術品を見学する費用

w_8 : 野菜を採る費用と野菜の種類を認識する費用

w_9 : 夜の踊りに支払う費用

w_{10} : 宿泊費

w_{11} : 朝の散策費

w_{12} : 原住民の母語を習う費用

w_{13} : 手づくり記念品を買う費用

w_{14} : チップ

上のモデルを検定するため、多次元回帰分析の線形モデルを利用した (Contingent valuation method: CVM).

(1) 強制投入法

線形回帰分析の強制投入法でまず分析した。分析数値は表2に表示している。解釈変異量 (explained variance) は49.4%である。その結果、払いたい金額と正相関の活動は、送迎の交通 (w_1), 原住民の伝統的な服を着る (w_2), 原住民風の料理 (w_4), 探検 (w_5), 夜の踊り (w_9), 宿泊 (w_{10}), 原住民の母語を習う (w_{12}) と手づくり記念品 (w_{13}) の8項目であり、他の6項目は負相関になった。

払いたい金額と相関関係にある変数を選び、二回目の強制投入分析を行った。その結果を表3に表示した。解釈変異量は48.6%である。その中で払いたい金額と正の相関にある活動は: 送迎の交通 (w_1), 原住民の伝統的な服を着る (w_2), 原住民風の料理 (w_4), 探

表1 エコツーリズムの活動。

項目	回答率 (%)	払いたい費用 (元)	順位
1. 送迎の交通	75.1	758	3
2. 原住民の伝統的な服を着る	45	173	11
3. 原住民の踊りと歌を鑑賞する	66	164	9
4. 原住民風の料理	91	606	1
5. 探検: 滝, 神木などの案内と解説	73	221	4
6. 原住民部落を回る: 遺跡の案内と解説	72	189	5
7. 原住民の美術品を見学する	57	136	10
8. 野菜を採ったり, 野菜の種類を認識する	68	137	8
9. 夜の踊り	70	158	6
10. 宿泊 (石板屋に泊まる), (キャンプする)	70 30	426 230	6 14
11. 手づくり記念品を買う	79	534	2
12. 朝の散策	24	102	15
13. 原住民の母語を習う	43	122	12
14. チップ	41	156	13

アンケートで調査した, 有効サンプルは267. 選択は多選であった.

検 (w_5), 宿泊 (w_{10}), 手づくり記念品 (w_{13}) の 6 項目であり, 他の 2 項目, 朝の散策 (w_{11}) とチップ (w_{14}) は, 負の相関になった.

(2) ステップワイズ法(逐次投入法)

次に線形回帰分析の逐次投入法で分析した. 分析した数値を表 4 に示す.

本研究では上の R^2 (解釈変異量) 最高のモデルを採用した. その際のモデルは次のとおりである.

$$WTP(2) = 1066.322 + 0.425w_1 + 0.687w_4 + 0.753w_5 + 0.560w_{10} + 0.301w_{13}.$$

(3) 支払い意志額の比較

14項目のエコツーリズム活動に対する支払い意志額の平均値を多次元回帰法で計算した. 算定式は $WTP(1)$, $WTP(1^*)$, $WTP(2)$ の 3 つの数学モデルであり, 来訪者の支払い意志額の平均値と比較し, 最適モデルを探した (表 5 参照).

支払い意志額の予測値はそれぞれ 2,294 円, 2,172 円, 2,289 円である. そしてこの予測値と訪問者の支払い意志額の平均値 (2,175 円) を比較すると, 無相関変数を取った $WTP(1^*)$ で 2,172 円と来訪者の支払い意志額の平均値 (2,175 円) にもっとも近かった. したがって, $WTP(1^*)$ モデルが来訪者のエコツーリズムの支払い意志額の予測式 (値) となる. また, $WTP(1)$ と $WTP(2)$ の調整済み R^2 (0.453 と 0.421) 及びその予測金額 (2,294 円と 2,289 円) とあまり差がないことから, 妥当なものと推測される. 他方, 観光客がエコツーリズムで払いたい (払ってもよい) 金額の平均値は約 2,000 円であった.

表 2 強制投入回帰分析表.

モデル	R^2	調整済み R^2	F 値
強制投入	0.494	0.453	11.878

$$\begin{aligned} WTP(1) = & 1013.062 + 0.405w_1 + 0.919w_2 \\ & - 0.253w_3 + 0.726w_4 + 1.298w_5 - 0.416w_6 \\ & - 0.247w_7 - 0.328w_8 + 0.699w_9 + 0.597w_{10} \\ & - 1.904w_{11} + 0.683w_{12} + 0.342w_{13} - 0.971w_{14}. \end{aligned}$$

表 3 2 回目強制投入回帰分散分析表.

モデル	R^2	調整済み R^2	F 値
強制投入	0.486	0.465	23.016

$$\begin{aligned} WTP(1^*) = & 1005.889 + 0.411w_1 + 0.851w_2 \\ & + 0.688w_4 + 0.976w_5 + 0.665w_{10} - 1.526w_{11} \\ & + 0.34w_{13} - 0.704w_{14}. \end{aligned}$$

表 4 逐次投入法回帰分析表.

モデル	R^2	調整済み R^2	F 値
1	0.199	0.195	45.523
2	0.301	0.293	26.524
3	0.380	0.369	22.919
4	0.416	0.403	11.242

表 5 回帰分析比較表.

モデル	エコツーリズムに対する支払い意志額
強制投入法	$\begin{aligned} WTP(1) = & 1013.062 + 0.405w_1 + 0.919w_2 - 0.253w_3 + 0.726w_4 + 1.298w_5 - 0.416w_6 - 0.247w_7 \\ & - 0.328w_8 + 0.699w_9 + 0.597w_{10} - 1.904w_{11} + 0.683w_{12} + 0.342w_{13} - 0.971w_{14}. \\ = & 1013.062 + 0.405 * 758.29 + 0.919 * 172.83 - 0.253 * 163.76 + 0.726 * 605.62 + 1.298 * 220.68 \\ & - 0.416 * 189.17 - 0.247 * 136.29 - 0.328 * 137.4 + 0.699 * 154.79 + 0.597 * 281.37 \\ & - 1.904 * 102.34 + 0.683 * 122.3864 + 0.342 * 534.27 - 0.971 * 156.11 = \underline{2294} \end{aligned}$
	$\begin{aligned} WTP(1^*) = & 1005.889 + 0.411w_1 + 0.851w_2 + 0.688w_4 + 0.976w_5 + 0.665w_{10} - 1.526w_{11} \\ & + 0.34w_{13} - 0.704w_{14} \\ = & 1005.889 + 0.411 * 758.29 + 0.851 * 172.83 + 0.688 * 605.62 + 0.976 * 220.68 + 0.665 \\ & * 281.37 - 1.526 * 102.34 + 0.34 * 534.27 - 0.704 * 156.11 \\ = & \underline{2172} \end{aligned}$
逐次投入法	$\begin{aligned} WTP(2) = & 1066.322 + 0.753w_5 + 0.687w_4 + 0.425w_1 + 0.301w_{13} + 0.560w_{10} \\ = & 1066.322 + 0.753 * 220.67 + 0.687 * 605.62 + 0.425 * 758.29 + 0.301 * 534.27 + 0.560 \\ & * 281.37 = \underline{2289} \end{aligned}$

3. 原住民保留地のエコツーリズムの活動計画

ところで、現在バクラス部落には、宿泊の場所がないため、1日のコースに変更せざるを得ない(表6参照)。原住民保留地でエコツーリズムを実施する時、出発前の教育(原住民保留地における資源、原住民の文化と風俗、利用者の態度と行動等に関するツーリズム教育を行うこと)、活動の設計、事後評価作業が重要である。

モニターツアーによる実証と討論

以下に述べるエコツーリズムは原住民の意見を取り入れ、表6の活動計画を参考に、時間と労働力を考慮し、又、バクラスの経営者の事情を勘案し、日帰りツアーとした。経営者の交通手段(8人用4WD車、運転手を除く)によって、参加人数は1回8人として、参加費用は経営者の計算に基づいて900元とした(表7参照)。

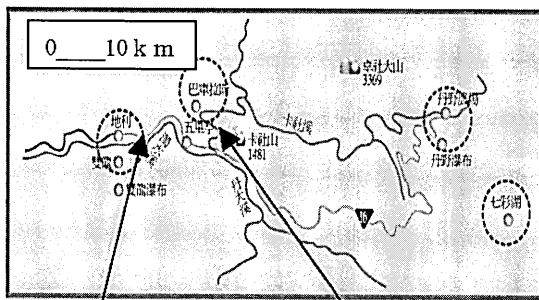
表6 バクラスにおけるエコツーリズムの計画.

段階	活動の内容
活動 8:00 12:00	<ul style="list-style-type: none"> * 山の散策(静かな環境を体験する); * 遺跡のガイドと説明; * 探検: 滝, 神木などの案内と解説; * 野菜や果物を採る, 山菜の認識(利用者に環境保護の意識を伝える);
活動 12:00 16:00	<ul style="list-style-type: none"> * 原住民風の料理を提供する * 原住民の母語を習う(挨拶言葉); * 原住民の歌と踊りの観賞; * 原住民の芸術品の見学 * 原住民の伝統な服を着る;
事後 作業	<ul style="list-style-type: none"> 連携を保持する, 情報の提供, 満足度調査, 経済利益の評価.
他の 項目	<ul style="list-style-type: none"> * 送迎の交通; * 伝統的な原住民の住宅を見学: 石板屋; * 原住民芸術品の販売, 例えば: 装飾品, 手づくり物等; * チップ, 感謝と満足を表現する.

表7 バクラスにおける日帰りツアーの計画.

段階	活動の内容
活動 8:00 12:00	<ul style="list-style-type: none"> * 台中から出発 * 山の散策(静かな環境を体験する); * 探検: 滝, 神木などの案内と解説; * 野菜や果物を採る, 山菜の認識(利用者に環境保護の意識を伝える); * 遺跡のガイドと説明;
活動 12:00 16:00	<ul style="list-style-type: none"> * 原住民風の料理を提供する * 原住民の母語を習う(挨拶言葉); * 伝統的な原住民の住宅を見学: 石板屋 * 原住民の芸術品の見学 * 台中へ帰る

注: 日帰りツアーなので、夜の原住民の歌と踊りの観賞を削除した。また、原住民芸術品の販売していないので、この項目も削除した。



バクラスの入口—地利村

エコツーリズム活動の範囲—バクラス部落

図2 バクラス部落の位置図.

1. 参加者の基本属性分析

今回のエコツーリズムの参加者は17人（4WD車は2台で、運転手を含んで18人。原住民ガイドを除いて、男性9人、女性8人）、職業は学生13人、公務員4人であり、年齢は学生22-26歳、公務員37-44歳であった。観光客の所得は学生が月額1万円以下、公務員が月額3-9万円であった。

2. 参加者の行く前の期待と体験後の満足度

参加者の行く前の期待と体験後の満足度の項目は心理体験、レクリエーション環境、レクリエーションのサービスと施設、レクリエーションの活動など4種類18項目である。統計の処理の方法はLikert scaleである（表8参照）。

出発前に参加者が期待度のアンケートに記入し、エコツーリズムを体験後、意見や感想をアンケートに記入することで比較した。以下はそれぞれの説明である。

3. 解析

(1) バクラスにおけるエコツーリズムの特色

自然風景の平均満足度が一番高い。参加者はバクラスが綺麗だと判断している。利用者の心理体験として、大自然の体験、気持ちの緩和、ストレスからの解放、観光客の行為表現（自然保護行動）、人間関係の増進などに満足している。

(2) 参加者に指摘された欠点

参加者の満足度が低い項目は安全性、原住民料理、民俗展示活動、トイレ、原住民の母語の学習などである。参加者の意見によると、バクラスの景観は綺麗だが、奥山に位置しているので、危険を感じる。トイレは女性にとって不便だと指摘されている。ただ、エコツーリズムには、設備の不備をがまんすることが必要であり、その教育も大切である。また、原住民の文化や料理について、興味がある参加者はほとんどいないので、検討する必要がある。

(3) エコツーリズムのコースの検討

エコツーリズムのコースについて、台中市民を対象にした調査の中で、参加の期待が高い項目は、第1位は原住民風の料理だったが、今度実施したツアーで、原住民料理について、参加者の満足度は高くなかった。したがって、次にコースを設計する時、料理のメニューも再考したほうがよいかもしれない。第2位は「手づくり記念品を買う」であったが、今回は原住民の経営者が品物を見せただけであり、大部分の参加者は不満であった。今のところ、手づくりのものは量が少ない

表8 行く前の期待度と体験後の満足度の分析表。

項 目	行く前の期待度	実際に体験後の満足度
心理体験		
a.大自然の体験	4.24	4.18
b.気持ちの緩和	3.82	4.18
c.人間関係の増進	2.94	4.18
d.ストレスからの解放	2.94	3.53
e.観光客の行為表現	2.94	3.82
レクリエーション環境		
a.環境衛生	3.76	3.71
b.自然風景	4.06	4.41
c.安全性	3.24	3
d.動植物	3.94	3.71
レクリエーションのサービスと施設		
a.ガイド解説サービス	3.88	3.94
b.原住民料理	3.59	3.18
c.トイレ	2.76	2.65
レクリエーションの活動		
a.民俗展示活動	3.59	3.00
b.環境教育	3.41	3.47
c.探検	4.12	4.12
d.原住民母語の学習	2.94	2.41
e.遺跡の解説とガイド	3.76	3.76
f.野菜の認識と採集	3.06	3.42

N=17, 数字の値は平均値である。

非常に高い：5, 高い：4, 普通：3, 低い：2, 非常に低い：1

ので販売することができない。これから、原住民と相談し、技術のある人に頼んで、手づくり記念品を販売することを考えるべきだと思う。「探検」について、参加者の満足度は4で、かなり高い。今度のようなコースで、続ける必要があると考えられる。「原住民部族を回る：遺跡の案内と解説」について、参加者の満足度がやや高い。しかし、原住民の説明方法はもっと簡単にすべきである。

(4) エコツーリズムのための施設建設について

原住民保留地は、未開発なところであるが、奥山に行くため、車で川を渡る必要がある。川の生態を破壊しないように、簡易な吊橋や臨時の橋の建設が必要だと考えられる。また、トイレの問題について、簡易なバイオトイレの検討も重要な課題である。

体験者は17人であったので、経済試算も17人の資料を基に分析する。また、金額は誤差を考慮し、平均値、

表9 エコツーリズム参加者の払いたい金額.

払いたい金額	平均値	中間値	モード
台中～バクラス (往復)	514	500	500
地利村～バクラス (往復)	300	300	300
解説ガイドの費用	341	300	200, 300, 500
食費	214	200	200
宿泊	364	300	200, 250, 300

N=17, 1元約3.1円.

中間値, モードの3つの側面から比較する (表9参照).

4. エコツーリズムの経済試算

(1) 2日間のコース

ア. 台中～バクラス (往復): 払いたい金額

(台中～バクラスの交通費+ガイドの費用+食費+宿泊)

$$=500+300 \times 2 + 200 \times 2 + 300=1,800 \text{ (元)}$$

台中市民の調査 (2,000元) との差が200元である.

イ. 地利村～バクラス (往復交通費): 払いたい金額

(地利村～バクラスの交通費+ガイドの費用+食費+宿泊)

$$=300+300 \times 2 + 200 \times 2 + 300=1,600 \text{ (元)}$$

(2) 日帰りコース

ア. 台中～バクラス (往復): 払いたい金額

(台中～バクラスの交通費+ガイド費用)

=500+300=800 (元)

今回払った費用 (900元) との差が100元であった.

イ. 地利村～バクラス (往復交通費): 払いたい金額

(地利村～バクラスの交通費+ガイド費用)

(3) 1ヶ月当りの収入 (予測)

原住民1ヶ月の収入 = (1回の参加者数) × (払いたい費用) × (1ヶ月の回数)

試算の条件: 1日ツアー (日帰りコース) の場合

1回の参加者数: 8人 (8人用の車)

1日の払いたい金額: 800元 (本研究の調査)

1ヶ月の回数: 8回 (土, 日曜日: 日帰りコース)

原住民1ヶ月の収入 = (8人/回) × (800元/人) × (8回/月) = 51,200元/月

台風などのリスクを考え, 8割くらいの稼働率を予測すると月額約4万円くらいになる. 原住民経営者の仕事は建築関係で, 今の収入は38,000元/月である. エコツーリズムの収入と同じくらいである. また, 経営者は原住民の文化を守りたいという強い意識があるため, バクラスにおいて, エコツーリズムを導入することを希望している.

5. 結論

参加者の意見では, バクラスはエコツーリズムを発展させる良い場所と思っている. また, バクラスの特徴を綺麗な自然資源と認識している. 実証テストの結果, 現地の活動時間を多くほしい. 日帰りでは時間が足りない. 2日間 (1泊2日) のコースがほしいと考えている. 17人の訪問者の中で15人は, もう一度参加したいと回答している. 前述した払ってもよい金額調査の結果, 2日間のコースで, 約2,000元であった. 今回の2日間 (1泊2日) のエコツーリズムのコースで, 支払える費用は約1,800元であった. その結果, 2日間のエコツーリズムの費用は1,800-2,000元である. 今回の日帰りのエコツーリズムのコースで, 支払える費用は約800元であり, 実際に払った金額は900元であった. 1日 (日帰り) コースなら, 原住民の1ヶ月の粗収入は約51,200元と予想され, 今の仕事の収入よりやや高い. エコツーリズムは原住民に対して利益が見込める.

この研究は, 潜在的な観光客を対象に, ダミー活動のコースで, アンケートを実施することによって, 原住民保留地でエコツーリズムに参加する願望と支払可能価値を予測し, エコツーリズムを発展させる可能性を明らかにした. エコツーリズムは, 原住民が持っている保留地の利用を促すことになるだろう. また, 4WD Jeep車による自然破壊を防止し, 下流の市民と手を結ぶことによって, 経済的な利益を生み出す可能性を示している. エコツーリズムは原住民保留地の永続的な利用を可能にする新たな政策と考えられる.

要 約

原住民保留地の目的は, 原住民の生活や文化などを保護することにある. 台湾のWTOへの加入は, 競争力不足の台湾農業に衝撃を与えており, その影響は, 原住民保留地の農業にも及んでいる. 政府は農業に対

する新たな強化対策を採すだけでなく、原住民保留地に農業とは別の新しい対策を提示しなければならない。本研究は原住民保留地の自然が保護されるとともに、住民の生活を向上させるため、エコツーリズムの導入について検討したものである。原住民のエコツーリズムに対する態度と潜在的な観光客を対象とする意向調査から、原住民保留地におけるエコツーリズムの可能性と価値（投下の見込める額）を分析した。エコツーリズムはレクリエーションを重視するものの、(1)自然資源と景観の保護、(2)地域文化と生活の尊重、(3)ツーリズムからの利益は地域の生計と資源保護の経費にあてる、という3つの目的をもっている。アンケート調査や実証から適切なコースを設定できることを示唆している。都市住民と原住民が連携し、原住民保留地の持続可能な利用が可能である。

文 献

- 陳元陽 1999 台湾の原住民と国家公園 九州大学出版会: 72-75頁
- 紀駿傑 1998 「從觀光原住民到原住民自主觀光」, 原住民文化與觀光休閒發展研討會論文集, 財團法人台灣原住民文教基金會: 21-35頁
- 高德生 1998 阿里山山美鄒族達娜伊谷自然生態公園—從河川保育與寶島固魚節談起, 原住民文化與觀光休閒發展研討會論文集, 財團法人台灣原住民文教基金會: 107-114頁
- 李素馨・侯錦雄 1998 休閒文化觀光行為的規範—以原住民觀光為例, 財團法人台灣原住民文教基金會: 92-106頁
- 西村幸子 1998 エコツーリズム～持続可能な観光に向けての模索, 第3回 観光に関する学術研究論文, 財団法人アジア太平洋観光交流センター: 32-34頁
- 歐聖榮 1998 南投縣信義鄉雙龍地利村休閒產業推動芻議, 財團法人台灣原住民文教基金會: 56-77頁
- 曹正偉 1995 遊憩對景觀的衝擊, 國立台灣大學地理學研究所碩士論文
- 楊文燦・葉冠瑩 2001 原住民對其保留地發展生態旅遊態度之研究, 戶外遊憩研究, 14(4): 27-49頁
- <http://village.nthg.gov.tw/hsini/a01.htm>

Summary

The agricultural production function of natives' reserve will decline after entering the World Trade Organization. As the government has been trying to find a new way out for Taiwan's agriculture, it is necessary to have a new interpretation for the function of the natives' reserves. This study selected the Bakulas natives' reserve in Nantou County as the study area, and took the residents of Taichung City as the respondents for a questionnaire survey to collect data for analyzing the potential market of ecotourism development on natives' reserve. The purpose of this research was based on the idea of ecotourism development to analyze its potential market. Ecotourism considers the importance of recreation by ①Protecting of natural resource and landscape ②Respecting of local culture and life ③Benefiting from ecotourism used to protect resources and maintain life. The results of this study are shown as the following: The potential ecotourists have shown their supports to and given their amounts of willingness to pay to 14 assumed activities at Bakulas reserve in Nantou County, which means that a potential market primarily exist. When the 14 simulated activities were arranged into a 2-day trip program for potential ecotourists who were asked about their willingness to pay for that trip. The average was 92% and amount was approximately NT\$2,000.00 per trip. Based on the analyses of the surveyed data, the feasibility of the development of ecotourism in the natives' reserves, could serve as another kind of valuable outdoor recreation activity.